

年間授業計画 新様式例

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科： 国語 科目： 現代の国語 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： （1組：山林・松井）（2組：山林・山崎）（3組：山林・松井）（4組：松井・山崎）（5組：山林・山崎）（6組：松井・山崎）

使用教科書： （東京書籍「新編現代の国語」（現国701））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重して、その能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学期	単元「自分の好きなものを紹介しよう」 【知識及び技能】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解できる。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて、理解し使うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・（読む）文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・（読む）文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え要旨や要点を把握している。 ・（話聞）目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・（話聞）自分の考えが的確に伝わるよう自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 ・（話聞）論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・指導事項 発表原稿作成 発表 相互評価 文章読解 ・教材 「ルリボシカミキリの青」 「国語表現ナビ」	○	○	○	知技 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文章中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 思判断表 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 態度 ・粘り強く筆者の主張の要旨を捉え、自分の興味・関心を確認し、考えをまとめ、伝えようとしている。 ・話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	○	○	○	25
	定期考査			○			○	○		
2 学期	単元「わかりやすい説明をしよう」 【知識及び技能】 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて、理解し使うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・（話聞）自分の考えが的確に伝わるよう自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫できる。 ・（話聞）話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、話の構成や展開を工夫できる。 ・（話聞）論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・指導事項 発表原稿作成 ロールプレイ 相互評価 ・教材 「わかりやすい説明をしよう」 「国語表現ナビ」	○	○	○	知技 ・話し言葉の表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・話の効果的な組立て方や接続の仕方を理解している。 思判断表 ・自分の考えが的確に伝わるよう話の構成や展開を工夫している。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容・構成・展開・表現を評価し、情報を整理し、自分の考えを深めたり広げたりする。 態度 ・自分の考えが的確に伝わるよう話の構成や展開を工夫しようとしている。 ・自分の考えを深めたり広げたりしようとして聞いている。	○	○	○	25
	単元「メディアとの付き合い方を考えよう」 【知識及び技能】 ・文章の構成・展開を把握し、具体例と論の関係をとらえることができ、筆者の主張を把握することができる。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文での筆者の主張を把握し、理解することができる。 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈することができる。 【学びに向かう人間性等】 ・筆者の主張をきっかけに、自身のメディアとの付き合い方や、思考をどう構築していくか、考え、文に表現することができる。	・指導事項 文章読解 ・教材 「未来をつくる想像力」 「国語表現ナビ」			○	知技 ・文章の構成・展開を把握し、具体例と論の関係をとらえることができる。また、筆者の主張を把握することができる。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文章中で使っている。 ・実社会において必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解している。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 思判断表 ・文章の内容や構成、論理の展開などについて的確に捉え、要旨や要点を把握している。 態度 ・粘り強く筆者の主張の要旨を捉え、自分のメディアとの付き合い方を考え、まとめようとしている。			○	
定期考査			○			○	○			
3 学期	単元「社会と関わる」 【知識及び技能】 ・文、話、文章の効果的な組立て方について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章を読み、論理の展開や要旨を把握することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・筆者の体験談から、仕事に対する思いを理解し、職業について見聞きしたことを発表することができる。	・指導事項 発表原稿作成 発表 相互評価 文章読解 ・教材 「鍋洗いの日々」 「国語表現ナビ」	○	○	○	知技 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 思判断表 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 態度 ・筆者の仕事に対する思いを深め理解し、職業について見聞きしたことを発表しようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○			○	○		
									合計 70	

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位
 対象学年組：第 1 学年 1組～ 6組
 教科担当者：（1組：山崎） （2組：山林） （3組：山崎） （4組：山林） （5組：松井） （6組：松井）
 使用教科書：（『新編言語文化』（東京書籍））

教科 国語

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重して、その能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	A 単元 さくらさくらさくら 【知識及び技能】 常用漢字の読み書きに慣れる。 【思考力、判断力、表現力等】 ものの見方、感じ方、考え方を捉え内容を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 桜に対する感性について理解を深め、自ら俳句で示す。	・本文中の漢字 ・本文中の語句 ・桜に対する俳句の作成	○			・本文中の漢字について、正しく読み書きできる。 ・筆者のものの見方、考え方を読み取ろうとしている。 ・桜に対する俳句を作成する。	○	○	○	5
	B 単元 いろはうた 【知識及び技能】 いろはうたを正しく音読できる。 【思考力、判断力、表現力等】 五十音図といろはうたの違いを理解する。	・いろはうた ・五十音図との違い ・五十音図小テスト		○		・いろはうたを、正しく音読することができる。 ・いろはうたと、五十音図の違いについて理解している。	○	○		5
	定期考査						○	○		
	C 単元 歴史的仮名遣い 【知識及び技能】 歴史的仮名遣いと、現代仮名遣いの読み方の違いについて知る。	・歴史的仮名遣い（特にハ行、長音）の読み方のルールを学ぶ。		○	○	・歴史的仮名遣いの読み方のルールを理解する。	○	○		6
2 学 期	D 単元 古文に親しむ 【知識及び技能】 正しい読み方で、音読する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品についての情報をまとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 工夫をしながら暗唱する。	・古文に親しむ 『竹取物語』『枕草子』『源氏物語』『方丈記』『平家物語』『徒然草』『奥の細道』冒頭部 ・暗唱テスト		○	○	・歴史的仮名遣いの読み方のルールを理解し、正しく音読をすることができる。 ・主体的に作品を選択し、工夫をしながら暗唱しようとしている。 ・図説やデジタル教材を用い、作品についての情報を整理できる。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		
	F 単元 芥川（『伊勢物語』） 【知識及び技能】 ・文語のきまりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を理解しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 文章の内容を的確にとらえようとしている。	・歴史的仮名遣いの読み方 ・本文中の古文単語 ・文学史 ・和歌の修辭法		○	○	・品詞分類表を理解する。 ・語句を終止形に直し、辞書で意味を調べることができる。 ・和歌の修辭法について理解する。 ・文学史について、図説を用い整理できる。	○	○	○	14
	定期考査						○	○		
3 学 期	G 単元 羅生門 【知識及び技能】 作中の語句・表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物のおかれている状況や心情を読み取ろうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 心情変化を読み取り、主題について考えようとしている。	・文学史 ・本文中の漢字 ・本文中の語句	○	○	○	・本文中の漢字について、正しく読み書きできる。 ・登場人物の心情を読み取ることができる。 ・下人のその後や、主題について叙述を基に考えようとしている。	○	○	○	14
	定期考査						○	○		
	H 単元 故事成語 【知識及び技能】 訓読のきまりを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 我が国と中国の文化の関係を知らうとしている。	・訓読のきまり ・故事成語について		○	○	・訓読のきまりについて、理解をする。 ・故事成語を調べ、まとめることができる。	○		○	12
	I 単元 和歌（百人一首） 【知識及び技能】 正しく読むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 気に入った和歌についてまとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 和歌の表現を味わう。	・気に入った和歌を調べる。 ・正しく読むことができる。 ・口語との違いを理解する。		○	○	・歴史的仮名遣いの読み方を理解することができる。 ・我が国の伝統文化である歌について、理解することができる。	○	○	○	8
定期考査										
									合計	70

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科：地理歴史 科目：地理総合 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：中里）（2組：皆川）（3組：中里）（4組：中里）（5組：中里）（6組：中里）
 使用教科書：（高校生の地理総合 帝国書院）

教科 地理歴史 の目標：
 【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開を理解し、様々な情報から調べまとめる。
 【思考力、判断力、表現力等】多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて構想し、考察・構想したことを説明したり議論する。
 【学びに向かう力、人間性等】課題を主体的に解決しようとし、日本国民としての自覚と愛情をもち、他国の文化を尊重する。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の生活文化の多様性や、地球的課題への取組などを理解し、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察・構想したことを説明したり、議論する力を養う。	課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元 自然環境と防災 【知識及び技能】 日本の地形や気候の特徴を理解し、世界や日本の各地で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結び付いていることをまとめる。 【思考力、判断力、表現力等】 自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や相違点から自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現に向けてそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 日本の自然環境 地震・津波や火山活動による災害と防災 気象災害と防災 自然災害への備え 地球儀と地図 地図と地理情報システム 現代国家と領域 地図からみる国内や国家間の結びつき ・教材 教科書、準拠ノート、授業プリント	【知識・技能】 授業プリントにおいて、知識問題等が正確に書かれている。 【思考・判断・表現】 授業プリントにおいて、指示された通りの表現が描かれている。 資料を読み取り、自らの考えが書かれている。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物が期日を守り、完全な状態で出されている。 授業に集中している。 授業に積極的に参加している。	○	○	○	12
	単元 地図と地理情報システム 【知識及び技能】 地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解し、それらを用いてその情報をまとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 位置や範囲、縮尺などに着目し、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察・表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 地図や地理情報システムについて、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・一人1台端末の活用等	【主体的に学習に取り組む態度】 提出物が期日を守り、完全な状態で出されている。 授業に集中している。 授業に積極的に参加している。	○	○	○	12
定期考査				○	○		
2 学 期	単元 生活文化の多様性と国際理解 【知識及び技能】 世界の人々の特色ある生活文化を基に、文化の多様性や、地理的環境の変化によって変容することなどを理解する。自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 世界の人々の生活文化について地域の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活 世界の産業と人々の生活 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 多様な生活便化と地理的環境 ・教材 教科書、準拠ノート、授業プリント ・一人1台端末の活用等	【知識・技能】 授業プリントにおいて、知識問題等が正確に書かれている。 【思考・判断・表現】 授業プリントにおいて、指示された通りの表現が描かれている。 資料を読み取り、自らの考えが書かれている。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物が期日を守り、完全な状態で出されている。 授業に集中している。 授業に積極的に参加している。	○	○	○	27
	定期考査				○	○	
3 学 期	単元 地球的課題と国際協力 【知識及び技能】 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地球的諸課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・指導事項 複雑に絡み合う地球的課題 人口問題 食料問題 都市・居住問題 感染症・衛生問題 資源・エネルギー問題 地球環境問題 ・教材 教科書、準拠ノート、授業プリント ・一人1台端末の活用等	【知識・技能】 授業プリントにおいて、知識問題等が正確に書かれている。 【思考・判断・表現】 授業プリントにおいて、指示された通りの表現が描かれている。 資料を読み取り、自らの考えが書かれている。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物が期日を守り、完全な状態で出されている。 授業に集中している。 授業に積極的に参加している。	○	○	○	19
	定期考査				○	○	
							合計
				○	○		70

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教科： 数学

科目： 数学 I

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組 ～ 6 組

教科担当者： (1・2組：入江・井上・松本・小作) (3・4組：入江・井上・松本・小作) (5・6組：入江・井上・松本・小作)

使用教科書： 数研出版 最新数学 I

教科 数学

の目標：

【知識・技能】	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
【思考・判断・表現】	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。
【主体的に取り組む態度】	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学 I

の目標：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
<ul style="list-style-type: none"> 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。 関数関係に着目し、事象を論理的に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 数と式 ・式を目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字に置き換えたりするなどして既に学習した計算の方法を関連付けて多面的に考えたり、目的に応じて適切に変形したりする能力を培う。 ・中学校までに取扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則演算ができるようにする。 ・不等式の科の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 数と式 多項式 多項式の加法・減法・乗法 展開の公式 式の展開の工夫 因数分解 いろいろな因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式 不等式の性質 1次不等式の解き方 連立不等式 不等式の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・数を数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができる。 ・2次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。 ・不等式の性質や不等式の解の意味について理解するとともに、1次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・1次方程式を解く方法や不等式の性質を解く方法を考察することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	30
	B 集合と命題 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できる。	<ul style="list-style-type: none"> 集合と命題 集合と部分集合 共通部分、和集合、補集合 命題と集合 命題と証明 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 【思考・判断・表現】 ・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を集合と命題の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	8
2 学 期	C 2次関数 ・2次関数とそのグラフのうちで理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できる。 ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数 関数とグラフ $y=ax^2$のグラフ $y=ax^2+q$のグラフ $y=a(x-p)^2$のグラフ $y=a(x-p)^2+q$のグラフ $y=ax^2+bx+c$のグラフ 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の共有点 2次不等式 2次不等式の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 ・2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフを書くなどして多面的に考察することができる。 ・2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	25
	D 図形と計量 ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 図形と計量 鋭角の三角比 三角比の利用 三角比の相互関係 三角比の拡張 三角比が与えられたときの角 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 図形の計量 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・鋭角の三角比の意味や相互関係について理解している。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 ・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	30
3 学 期	E データの分析 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> データの分析 データの整理 データの代表値 データの散らばり データの相関 相関係数 分割表 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 【思考・判断・表現】 ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	12

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： （1組：松本）（2組：松本）（3組：小作）（4組：小作）（5組：小作）（6組：松本）

使用教科書： 数研出版 最新数学A

教科 数学 の目標：

【知識・技能】	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
【思考・判断・表現】	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を養う。
【主体的に取り組む態度】	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確定な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	記 時 数
1 学 期	1-1 場合の数 場合の数を求めるときに基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 樹形図、和の法則、積の法則 4. 順列 5. 円順列と重複順列 6. 組合せ	【知識・技能】 ○共通部分、和集合、補集合を求めることができる。 ○和集合、補集合の要素の個数の公式を用いることができる。 ○樹形図や和の法則、積の法則を用いることができる。 ○円順列、重複順列の用語、公式を理解し、利用できる。 ○組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ○組み合わせの問題を処理できる。 ○同じものを含む順列の総数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 ○自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。 ○積の法則から順列の公式を考察することができる。 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。 ○順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ○同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常語の「かつ」「または」「～でない」との関連を認識しようとする。 ○1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。 ○正の約数の個数を数えることに興味をもつ。 ○順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。 ○組合せの考え方を活用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。	○	○	○	18
	1-2 確率 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	7. 確率の意味 8. 確率の計算 9. 確率の基本性質 10. 和事象の確率 11. 余事象の確率	【知識・技能】 ○確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。 ○確率、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。 ○事象の排反の意味を理解し、2つの事象が排反であるかを判断できる。 ○確率の加法定理を用いて、確率を求めることができる。 ○一般の和事象の確率を求めることができる。 ○余事象の確率の公式を利用して、確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○試行の結果を事象としてとらえ、事象を既知の集合と結びつけて考えようとする。 ○不確定な事象を、明確に確からしいという概念をもとに数量的にとらえることができる。 ○補集合をもとに、余事象を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。 ○一般の和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。	○	○	○	11
2 学 期	2-1 確率 同上	12. 独立な試行の確率 13. 反復試行の確率 14. 条件付き確率 15. 期待値	【知識・技能】 ○独立な試行の意味を理解し、公式を用いて求めることができる。 ○反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ○条件付き確率の定義、意味を理解し、公式を用いて求めることができる。 ○期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○2つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。 ○反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 ○具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。 ○くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもつ。	○	○	○	9
	2-2 図形の性質 三角形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 円の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 作図についての理解を深め、作図の各過程において平面図形のどの性質を用いているかを考察できるようにする。	1. 角の二等分線と比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. チェバ・メネラウスの定理 4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円と接線 7. 接線と弦の作る角 8. 方べきの定理 9. 2つの円	【知識・技能】 ○三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ○外心・内心・重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。 ○三角形の面積と線分の比の性質を理解している。 ○チェバの定理・メネラウスの定理を用いて、線分比を求めることができる。 ○円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。 ○接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。 ○方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。 ○2円の共通接線について理解し、その長さを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。 ○チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 ○三角形の辺と角の大小関係や、三角形の存在条件を理解している。 ○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。 ○2円の位置関係を、動的な面から観察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 ○身近な問題に対し、チェバの定理を活用できることを理解し、図形の性質に興味・関心をもつ。 ○三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとする。 ○方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。	○	○	○	22
3 学 期	3-1 図形の性質 同上	10. 基本の作図 11. いろいろな作図 12. 空間における直線と平面 13. 多面体	【知識・技能】 ○垂線を引く、垂直二等分線を引く、角の二等分線を引く、平行線を引くなどの基本的な作図を行うことができる。 ○円周角の定理を利用して、円の外部の点を通る円の接線を作図することができる。 ○平行線と比の性質を利用して、線分を内分する点を作図することができる。 ○空間における2直線の位置関係に3つの場合があることや、2直線のなす角を理解し、それらの問題を処理できる。 ○直線と平面の位置関係に3つの場合があることを理解し、問題を処理できる。また、ある直線が平面上の2直線に垂直のとき、直線と平面が垂直であることを理解している。 ○2平面の位置関係に2つの場合があることを理解している。また、2平面のなす角を理解し、問題を処理することができる。 ○5種類の正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 ○正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○作図の各過程において、平面図形のどの性質を用いているかを考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。 ○空間における図形の位置関係について考えてみようとする。 ○どんな多面体にもオイラーの多面体定理が成り立つことに興味をもち、簡単な多面体で確かめようとする。 ○正多面体が5種類である理由に関心をもち、その理由を調べようとする。	○	○	○	10
							合計 70

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：小糸）（2組：秋本）（3組：秋本）（4組：小糸）（5組：小糸）（6組：秋本）
 使用教科書：（数研出版 新編 生物基礎）

教科 理科 の目標：
 【知識及び技能】 自然現象について、理解するとともに観察・実験技術を身に付ける。
 【思考力、判断力、表現力等】 自然現象について、特徴を見出して表現している。
 【学びに向かう力、人間性等】 自然現象の理解に主体的にかかわり、見通しを持った振り返りをするなど科学的に探究しようとしている。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物の特徴、ヒトの体、生物の多様性と生態系について、理解するとともに観察実験技術を身に付ける	生物の特徴、ヒトの体、生物の多様性と生態系について、特徴を見出して表現している	生物の特徴、ヒトの体、生物の多様性と生態系について、主体的にかかわり、科学的に探究しようとしている

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	生物の特徴 【知識及び技能】 生物の特徴や遺伝子とその働きを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察・実験などを通して探究し、多様な生物が持つ共通の特徴を見出して表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 生物の特徴に主体的にかかわり見通しを持った振り返りをするなど、科学的に探究しようとしている。	・指導事項 細胞の共通性 原核細胞と真核細胞 光合成・呼吸 酵素 DNAの構造 遺伝子のはたらき 遺伝子の発現 タンパク質 ・教材 教科書・副教材・授業プリント	【知識・技能】 授業プリント・実験プリント。 知識問題等が正確にかかっている。 実験の手順等が正確に書かれている。 【思考・判断・表現】 授業プリント・実験プリント。 知識問題等が正確にかかっている。 実験の考察等が丁寧に書かれている。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物がしっかりと出されている。 授業に集中している。 検査ごとの振り返りにしっかりと取り組んでいる。	○	○	○	24
	定期考査	・一人1台端末の活用 等		○	○		
2 学 期	ヒトの体の特徴 【知識及び技能】 ヒトの体の調節について、神経系と内分泌系による調節、免疫を理解しているとともに、それらの観察・実験に関する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ヒトの体の調節について、観察・実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節、及び免疫などの特徴を見出して表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ヒトの体の調節に主体的にかかわり、見通しを持った振り返りをするなど科学的に探究しようとしている。	・指導事項 自律神経系と内分泌系 体内環境の維持 自然免疫 獲得免疫 ・教材 教科書・副教材・授業プリント	【知識・技能】 授業プリント・実験プリント。 知識問題等が正確にかかっている。 実験の手順等が正確に書かれている。 【思考・判断・表現】 授業プリント・実験プリント。 知識問題等が正確にかかっている。 実験の考察等が丁寧に書かれている。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物がしっかりと出されている。 授業に集中している。 検査ごとの振り返りにしっかりと取り組んでいる。	○	○	○	26
	定期考査	・一人1台端末の活用 等		○	○		
3 学 期	生物の多様性と生態系 【知識及び技能】 生物の多様性と生態系について、植生と繊維生態系とその保全を理解しているとともに、それらの観察・実験に関する技術を身に付けている。また、生態系の保全の重要性について認識している。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の多様性と生態系について、観察・実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見出して表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 生物の多様性と生態系に主体的にかかわり、見通しを持った振り返りをするなど科学的に探究しようとしている。	・指導事項 植生 バイオーム 遷移 生態系のバランスと保全 ・教材 教科書・副教材・授業プリント	【知識・技能】 授業プリント・実験プリント。 知識問題等が正確にかかっている。 実験の手順等が正確に書かれている。 【思考・判断・表現】 授業プリント・実験プリント。 知識問題等が正確にかかっている。 実験の考察等が丁寧に書かれている。 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物がしっかりと出されている。 授業に集中している。 検査ごとの振り返りにしっかりと取り組んでいる。	○	○	○	20
	定期考査	・一人1台端末の活用 等		○	○		
							合計
							70

東村山 高等学校 令和7年度(1学年用)教科 保健体育 科目 体育(男)

教科：保健体育 科目：体育(男) 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 1組～6組

教科担当者：長坂 直己・大西 強介・田島 健吏

使用教科書：(大修館書店 新高等保健体育)

教科 保健体育 の目標：

- 【知識・技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考・判断・表現】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育(男) の目標：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>○柔道、バスケットボール、バレーボール、水泳、スポーツテスト</p> <p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。</p>	<p>・指導事項 基本技術の習得 ルールと試合の運営 安全な競技の実施</p> <p>・教材 柔道着、ボール、タイマー、ビート板、ワークシート</p>	<p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</p>	○	○	○	40
<p>○水泳、柔道、陸上、サッカー</p> <p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。</p>	<p>・指導事項 基本技術の習得 ルールと試合の運営 安全な競技の実施</p> <p>・教材 ビート板、柔道着、ボール、タイマー</p>	<p>【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</p>	○	○	○	40
<p>○長距離走</p> <p>【知識・技能】 記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。</p> <p>【思考・判断・表現】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする。ことなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・指導事項 基本技術の習得 安全な競技の実施 基礎体力の向上 忍耐力の向上</p> <p>・教材 タイマー 記録用個人カード</p>	<p>【知識・技能】 自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて仲間とともに陸上競技を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	25
合計						105

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用）教科

保健体育 科目 体育（女）

教科： 保健体育 科目： 体育（女）

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： 長坂 直己・大西 強介・新堀 陽子

使用教科書：（ 大修館書店 新高等保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識・技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考・判断・表現】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育（女） の目標：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	○陸上、テニス、水泳、バスケットボール、スポーツテスト 【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。	・指導事項 基本技術の習得 ルールと試合の運営 安全な競技の実施 ・教材 ラケット、ボール、 タイマー、バトン、 ビート板、ワークシート	【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。	○	○	○	40
2 学 期	○水泳、ダンス、バレーボール、フットサル 【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。	・指導事項 基本技術の習得 ルールと試合の運営 安全な競技の実施 ・教材 ビート板、タイマー 音楽プレーヤー、 ボール、ワークシート	【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。	○	○	○	40
3 学 期	○長距離走 【知識・技能】 記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。 【思考・判断・表現】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 基本技能の習得 安全な競技の実施 基礎体力の向上 忍耐力の向上 ・教材 タイマー	【知識・技能】 自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ることができる。 【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて仲間とともに陸上競技を楽しむための調整の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	25
							合計
							105

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用）教科

保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1 組：田島） （2 組：長坂） （3 組：大西） （4 組：田島） （5 組：大西） （6 組：長坂）

使用教科書：（大修館書店 新高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識・技能】 各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康。安全について理解する。
- 【思考・判断・表現】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断できるようにする。
- 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進・体力の向上を目指す。

科目 保健 の目標：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境を創り、活力ある生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	現代社会と健康 【知識・技能】現代社会における個人及び集団の健康について理解を深めるとともに、技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】現代社会における個人及び集団の健康について社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】現代社会における個人及び集団の健康について、健康の保持増進やそれを支える環境を創る態度を養う。	・指導事項 健康の考え方 現代の感染症とその予防 生活習慣病の予防と回復 ・教材 タイマー、PC ・一人一台端末の活用 振り返りなどのオンライン教材の活用	【知識・技能】 現代社会における個人及び集団の健康について、理解を深める。 【思考・判断・表現】 現代社会における個人及び集団の健康について、社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】現代社会における個人及び集団の健康について、健康の保持増進やそれを支える環境創りを目指し、活力ある生活を営む態度をもって取り組もうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		
2 学期	現代社会と健康 【知識・技能】現代社会における個人及び集団の健康について理解を深めるとともに、技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】現代社会における個人及び集団の健康について社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】現代社会における個人及び集団の健康について、健康の保持増進やそれを支える環境を創る態度を養う。	・指導事項 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 精神疾患の予防と回復 ・教材 タイマー、PC ・一人一台端末の活用 振り返りなどのオンライン教材の活用	【知識・技能】 現代社会における個人及び集団の健康について、理解を深める。 【思考・判断・表現】 現代社会における個人及び集団の健康について、社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】現代社会における個人及び集団の健康について、健康の保持増進やそれを支える環境創りを目指し、活力ある生活を営む態度をもって取り組もうとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		
3 学期	現代社会と健康 【知識・技能】安全な社会生活について、理解を深めるとともに、技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】安全な社会について、社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】安全な社会について、健康の保持増進やそれを支える環境を創る態度を養う。	・指導事項 安全な社会の創造 応急手当 ・教材 タイマー、PC ・一人一台端末の活用 振り返りなどのオンライン教材の活用	【知識・技能】 安全な社会生活について、理解を深める。 【思考・判断・表現】 安全な社会生活について、社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 安全な社会における個人及び集団の健康について、健康の保持増進やそれを支える環境創りを目指し、活力ある生活を営む態度をもって取り組もうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		合計 35

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用）教科

芸術 科目 音楽Ⅰ

教科：芸術

科目：音楽Ⅰ

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～6組

教科担当者：新井 聡子 ベロー 励子

使用教科書：（音楽Ⅰ Tutti+ 教育出版）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けることができる。	音楽を演奏する上で必要な知識及び技能を、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することができる。また音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	音楽の美しさや旋律の良さを味わい、主体的、協働的に歌唱や器楽、鑑賞の活動に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	・オリエンテーション 「音楽の基礎知識を身に付けよう」	・楽典 読譜や音楽の基礎的な知識の学び直し。 教材：高校生のための音楽研究ノート、一人一台端末の活用			○		【知・技】楽譜を読むために必要な力や基礎的な知識を習得し、理解している。 【思】音色やリズム、旋律、和音の関係を知覚し、音楽表現との関わりについて考えている。 【態】音楽のテキストチュアに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	・歌唱 「歌詞とメロディの関わり」	・校歌 ・日本歌曲「この道」他 学校や地域の歴史、背景について言葉のもつ音程と旋律との関わり	○				【知・技】曲にふさわしい発声や発音を身に付け、演奏に生かしている。 【思】歌詞の語感を感じ、旋律との関わりを理解して豊かな響きで演奏している。 【態】旋律や伴奏、歌詞に関心をもち、主体的に活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	・器楽 「フォークギターを演奏しよう」	・ギターアンサンブル 「第三の男」他 アボヤンド、アル・アイレ奏法 音階、メロディの演奏	○	○			【知・技】楽器の仕組みや奏法を理解し、TAB譜を自分で読み取る力を身に付けて演奏している。 【思】アンサンブルでの役割を理解し、曲調にふさわしい奏法や音色で表現している。 【態】ギターの豊かな響きや美しい音色を追求し表現しようとしている。	○	○	○	10
2 学 期	・歌唱 「ドイツ語の歌を歌おう」 ドイツ語の発音、歌詞の意味を理解し表現する	・ドイツ歌曲、イタリア歌曲 ・二部合唱 リズムや音程、ハーモニー	○				【知・技】曲にふさわしい発声や発音を身に付け、演奏に生かしている。 【思】歌詞の語感を感じ、旋律との関わりを理解して豊かな響きで演奏している。 【態】旋律や伴奏、歌詞に関心をもち、主体的に活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	・器楽 「キーボードを演奏しよう」 「ボディパーカッション」	・キーボード連弾 「リズムにのって」他 両手で演奏 指くぐり、指越え、指替え ・プリマスロック他		○	○		【知・技】楽器の仕組みや奏法を理解し、楽譜を自分で読み取る力を身に付けて演奏している。 【思】アンサンブルでの役割を理解し、曲調にふさわしい奏法や音色で表現している。 【態】仲間と共に主体的・協働的に表現しようとしている。	○	○	○	10
	・鑑賞 「オーケストラ入門」 音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	・楽器の音色や特徴 ・バレエ音楽「ボレロ」 ・映画「アマデウス」			○		【知・技】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞できている。 【思】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり方について意見を交換するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合うことができる。 【態】音楽を形づくっている要素に注目しながら、主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
3 学 期	・鑑賞 「様々な声の音楽の魅力」 世界の様々な声の音楽を鑑賞し、音楽文化の多様性についての理解する	・世界の音楽めぐり アジア、アフリカ、ヨーロッパ、北米の地域の諸民族の声			○		【知・技】世界の諸民族の音楽の特徴や、楽曲の文化歴史的背景を理解している。 【思】音色や速度・旋律や感じ取り、楽曲の構造との関わり合いを表現している。 【態】世界の文化の共通性や固有性に関心をもち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	・器楽 「箏を演奏しよう」	・箏曲「さくら」他 箏の歴史や奏法について ・日本の伝統音楽や文化について ・創作「さくら」アンサンブル	○	○	○		【知・技】楽器の仕組みや奏法を理解し、縦譜を自分で読み取る力を身に付けて演奏している。 【思】曲調にふさわしい奏法や音色で表現している。 【態】箏の豊かな響きや美しい音色を追求し表現しようとしている	○	○	○	12 合 計 70

東村山 高等学校 令和7年度(1学年用) 教科

芸術 科目 美術 I

教科: 芸術

科目: 美術 I

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 1 学年 組 ~ 組

教科担当者: (12組: 小野) (3組: 平城) (4組: 平城) (5 6組: 小野) (組:) (組:)

使用教科書: (美術 I 光村図書)

教科 美術 I

の目標:

【知識及び技能】

○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。○意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。

【思考力、判断力、表現力等】

○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】

○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

科目 美術 I

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。○意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		絵 彫	デ	映						
<p>【知識及び技能に関する目標】 視覚に関する錯覚の効果を理解し、不思議なイメージを捉えている。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 錯視やイメージの重なりなどを基に、形や色彩を鑑賞する。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 不思議な世界を表す鑑賞活動に、主体的に取り組む。</p>	○錯視、美術の様々な表現について					<p>【知】 視覚に関する錯覚の効果、質感や空間など造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【鑑】 錯視や不思議な世界の表現の効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 【態・表】 錯視やイメージの重なりなどを基に、不思議な世界を表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 【態・鑑】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい錯視や不思議な世界の特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。</p>				2
<p>【知識及び技能に関する目標】 マークの認識されやすい効果的な形や色彩を使用し、意図に基づいて表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 ロゴマークの内容や目的と見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 ロゴマークで効果的に表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>	○オリジナルロゴマークをデザインする					<p>【知】 形や色彩の性質やそれらが感情にもたらす効果、伝達する意図や目的に求められる造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 【技】 表現の意図や目的に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫して創造的に表している。 【発】 表現する内容や目的から主題を生成し、見やすさや美しさの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練っている。 【鑑】 見やすさや美しさの調和を感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、価値意識を高め、見方や感じ方を深めている。 【態表】 伝達する内容や目的をオリジナルロゴマークで表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 【態鑑】 ロゴマークのよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。</p>				8
<p>【知識及び技能に関する目標】 モンテテックの技法を理解し偶然できる色や形の美しさや表現の効果を生かし、出来た素材を生かして、コラージュによりしおりを作成する。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 モンテテックの技法を理解し偶然できる色や形の美しさや表現の効果を生かし、試行錯誤しながら、色や形を再構成し表現のよさや特性を基に、表現の効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 モンテテックやコラージュによる表現の特性を生かして表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>	○モンテテックでしおりを作成する					<p>【知・技】 モンテテックの技法を理解し偶然できる色や形の美しさや表現の効果を生かし、出来た素材を生かして、コラージュによりしおりを作成している。 【思・判・表】 モンテテックの技法を理解し偶然できる色や形の美しさや表現の効果を生かし、試行錯誤しながら、色や形を再構成し表現のよさや特性を基に、表現の効果を考え、構想を練ったり鑑賞している。 【関・態】 モンテテックやコラージュによる表現の特性を生かして表す創造活動に、主体的に取り組んでいる。</p>				6
<p>【知識及び技能に関する目標】 全体のイメージや作風などを捉え、線や面などの版による表現の効果を生かし、彫りや製版、刷りを工夫して表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 版画の表現のよさや特性を基に、版による表現の効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 版による表現の特性を生かして表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>	○シルクスクリーン版画で印刷する					<p>【知】 版による表現の効果や版画の技法や材料、用具の特性を理解し、意図に応じて創意工夫し、主題を追求して表すことを理解している。 【技】 線や面などの版による表現の特性や効果を生かし、製版、刷りを工夫し、主題を追求して創造的に表している。 【発】 版画表現の特性を生かして主題を生成し、形や構成、版の形式による効果などを考え、創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】 版の特性を生かした作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫との関連などを考え、見方や感じ方を深めている。 【態表】 版の特性を生かして構想を練ったり、意図に応じて工夫して表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 【態鑑】 版による表現の特性と作者の意図と工夫との関連を感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。</p>				8
<p>【知識及び技能に関する目標】 デジタル機器による画像の加工方法やイラストのイメージの変化について理解する。レタリングについて学び、効果的な文字の形やレイアウトを工夫し、道具や用具を工夫して表現したいイメージや意図に基づいて表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 デジタル機器を利用した画像加工の技術やイラストを利用して、意図したイメージを構想し、色彩の見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 意図したイメージを色彩の工夫により表現したいイラストや文字で効果的に表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>	○スケッチブックの表紙デザイン					<p>【知・技】 デジタル機器による画像の加工方法やイラストのイメージの変化について理解する。レタリングについて学び、効果的な文字の形やレイアウトを工夫し、表現したいイメージや意図に基づいて表している。 【思・判・表】 デジタル機器を利用した画像加工の技術やイラストを利用して、意図したイメージを構想し、色彩の見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞している。 【態・鑑】 意図したイメージを色彩の工夫により表現したいイラストや文字で効果的に表す創造活動に、主体的に取り組んでいる。</p>				26
<p>【知識及び技能に関する目標】 形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、粘土などの材料の特性を生かして表す。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】 対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に、形や質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】 表情や動きを捉えて粘土で表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>	○自分の指を再現する					<p>【知・技】 形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、粘土などの材料の特性を生かして表している。 【思・判・表】 対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に、形や質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞している。 【関・態】 表情や動きを捉えて粘土で表す創造活動に、主体的に取り組んでいる。</p>				20
										合計 70

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教科： 芸術 科目： 書道 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： （ 12組：大河原 ） （ 56組：大河原 ）

使用教科書： （ 教育図書 「書 I」 ）

教科 書道 I の目標：

【知識及び技能】 ・書の見方や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようとする。書表現の各部の技術を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 ・古典の臨書を通して書的美を理解し、書表現や作者に対する理解力を身に付ける。表現力と鑑賞力を高める。書表現の作品全体の美しさの表現。

【学びに向かう力、人間性等】 ・書の学習活動を通して、書を愛好する心情を育てる。表現力を磨くことにより、自己を他に伝えたり他を理解する能力を育てる。愛をもって芸術表現を楽しむ。

科目 書道 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書道 I の 目標 書の見方や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようとする。書表現の各部の技術を身に付ける。	書道 I の 目標 ・古典の臨書を通して書的美を理解し、書表現や作者に対する理解力を身に付ける。表現力と鑑賞力を高める。書表現の作品全体の美しさの表現。	書道 I の 目標 ・書の学習活動を通して、書を愛好する心情を育てる。表現力を磨くことにより、自己を他に伝えたり他を理解する能力を育てる。愛をもって芸術表現を楽しむ。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		漢 仮	漢	仮						
1 学 期	書道の正しい知識を身に付け、古典の各表現に合わせて道具などの使い方や選別を考える。 漢字の書 楷書とさまざまな書 【知識及び技能】 中国の文字と書の内容と文化、楷書の書風の発展、各古典に特有の個性について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 【表現】 楷書の古典の個性に対応した用筆・運筆、字形、全体の構成について工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 【鑑賞】 漢字の書体の個性や、その背景にある歴史、文化に興味を持ち、愛をもって自ら漢字の書の鑑賞に関する学習に取り組む姿勢が見える。	書写から書道へ 中学書写と高校書道の相違点 漢字の変遷とさまざまな書体								2
	2. 楷書の造形、個性を学ぶ 【知識及び技能】 【表現】 中国各種書の書体、書風について理解する。 【鑑賞】 各種書の鑑賞、字形、表情等から受ける印象について理解する。 楷書の技術を生かした表現を身に付ける。 【思考・判断・表現】 【鑑賞】 各種書の価値について考え、各書の実しさを捉えた表現ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 【表現】 自ら楷書表現の学習に愛をもって積極的に取り組もうとする。 【鑑賞】 自ら漢字楷書の鑑賞に対する学習活動に取り組もうとする。	2. 楷書の造形を学ぶ 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛橛造像記 初唐の三大家の比較								18
2 学 期	2. 文字の造形を学ぶ【行書】 【知識及び技能】 【表現】 行書の古典の書体や書風、背景と表現との関わりについて理解する。 【鑑賞】 鑑賞、字形、構え等と表現の関わり、中国や日本の行書と書文化について理解する。 各行書の古典の美、個性を理解する。 【思考・判断・表現】 【表現】 行書古典の美や個性に対応した用筆・運筆、字形、構成について工夫する。行書のリズム、流れで全体を表現する。 【鑑賞】 各行書の価値、個性について考え、各行書の実しさを味わう。 【学びに向かう力、人間性等】 【表現】 自ら行書の個性的な表現の学習活動に愛をもって取り組もうとする。 【鑑賞】 自ら行書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとする。	2. 行書の造形を学ぶ 蘭亭序 争坐位文稿 風信帖 蘭亭序と風信帖の比較								14
	2. 草書・隸書・篆書の造形を学ぶ 【知識及び技能】 【表現】 草書・隸書・篆書の歴史的繋がりが、用筆・運筆など造形を形成して表現する。 【鑑賞】 三体それぞれの表現の特徴や、各書体に固有の造形や構画の細やかな特徴を理解する。 草書・隸書・篆書の古典の特徴を生かした表現を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 【表現】 草書・隸書・篆書の古典の個性に合わせた技術に基づいてより実践して工夫する。 【鑑賞】 草書・隸書・篆書の古典の歴史的価値と造形的価値について考え、書の実しさを理解し感じる。 【学びに向かう力、人間性等】 【表現】 自ら草書・隸書・篆書の書の表現学習に愛をもって取り組もうとする。 【鑑賞】 自ら草書・隸書・篆書の書の鑑賞活動に取り組もうとする。	2. 文字の造形を学ぶ 【草書/隸書/篆書】 真草千字文 曹全碑 泰山刻石								14
	仮名交じりの書 【知識及び技能】 【表現】 漢字仮名交じりの書について理解したうえで表現すること。 【鑑賞】 漢字の書と異なった、漢字仮名交じり文の造形について理解すること。 漢字と仮名を調和させて表現する技術を身に付けていること。 【思考・判断・表現】 【表現】 漢字と仮名が調和し、文の内容に合わせた表現がされていること。 【鑑賞】 現代社会における漢字仮名交じり書の意義について考え、美しさを味わっていること。 【学びに向かう力、人間性等】 【表現】 自ら漢字仮名交じりの書の表現学習に興味を持ち、愛をもって取り組もうとする。 【鑑賞】 自ら漢字仮名交じりの書の鑑賞学習に取り組んでいること。 作品と授業中の取り組み状況によって評価する。	2. 創作する 好きな言葉や文を書く 漢字仮名交じり文と日本語表記 日常の表現								4
3 学 期	【知識・技能】 【表現】 古筆の作品について理解している。小筆の性質や用法について理解し、細かな表現を工夫する。 【鑑賞】 日本独特の書である仮名と物言や日記などの文化の関わりを理解している。仮名の細やかな技法を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力】 【表現】 仮名の古筆の発展された時代、作者などを理解したうえで、全体の造形について工夫して表現する。 【鑑賞】 仮名の古筆の価値とその根拠について考え、時代、作者など人物まで味わう。 【学びに向かう力、人間性等】 【表現】 自ら日本人として、仮名の書表現学習に愛をもって取り組む。 【鑑賞】 自ら日本人として、仮名の書の鑑賞学習に取り組む。	1. 仮名の成立と種類、時代 2. 文字の造形を学ぶ 仮名の筆使い 平仮名 草体 連綿 変体仮名 蓬萊切 高野切三種								18
										合計 70

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用）教科 外国語 科目 英語コミュニケーション I

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーション I 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： 1 組～6 組：市岡恵梨 神野節子 清澤佳奈子

使用教科書：（ COMET English Communication I (教研出版) ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 外国語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、それを適切に活用する技能を養う。

【思考力、判断力、表現力等】 日常的な話題や社会的な話題について、適切に表現したり伝えあったりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーション I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・英検4級程度の文法事項を理解している。 ・文法事項の理解を基に、文章を読み取ったり、やり取りを聞いてその内容を理解する技能を身に付けている。	・文法事項の理解を基に、自身の感情や意見を短い英文で書くことができる。 ・教科書本文の要点と概要をまとめることができる。	・文法事項の理解を基に、自身の感情や意見を短い英文で書くこととしている。 ・教科書本文の要点と概要をまとめようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 (発 言)	書						
1 学 期	A Lesson1 過去形 【知識及び技能】 動詞の過去形と意味を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各投稿者の日本での体験について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート	○					○	○	○	10
	B Lesson2 進行形 【知識及び技能】 現在形・過去形・進行形の比較を通じて、英語における時制を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ダイキが熱中していることやその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト		○		○			○	○	10
	C Lesson3 助動詞 【知識及び技能】 助動詞の意味と、助動詞を含む文の語順を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 おにぎりの海外での人気とその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート		○					○	○	10
	D Lesson4 不定詞 【知識及び技能】 不定詞の意味と、語順を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ピクトグラムについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト			○				○	○	10
2 学 期	E Lesson5 動名詞 【知識及び技能】 動名詞の意味と用法を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 フアンリドッグやハンターの仕事について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート		○					○	○	10
	F Lesson6 that 節 【知識及び技能】 that節の意味を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 コンビニエンスストアの成功のきっかけについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト			○				○	○	10
	G Lesson7 現在完了形 【知識及び技能】 現在完了形に関する事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 高校の水族館部の活動について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート		○					○	○	10
	H Lesson8 受動態 【知識及び技能】 受動態の用法に関する事項を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 スマート農業について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト		○	○				○	○	10
3 学 期	I Lesson9 比較表現 【知識及び技能】 比較表現の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 食料廃棄の問題について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート		○					○	○	10
	J Lesson10 関係代名詞 【知識及び技能】 関係代名詞の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ウィリアム・カムクランが成し遂げたことについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 記録などを通じて自らの英語力の変化に注目することができる。	・教科書及び付属副教材 ・COMET単語帳 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト		○	○				○	○	10
	定期考査							○	○		1
										計	105

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用）教科 外国語 科目 英文基礎

教科： 外国語 科目： 英文基礎 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組
 教科担当： (1組：橋本科二 市川恵梨) (2組：菅澤佳奈子 市川恵梨) (3組：菅澤佳奈子 石川文一) (4組：石川文一 菅澤佳奈子) (5組：橋本科二 江島れお) (6組：菅澤佳奈子 市川恵梨)
 使用教科書： (語帳ドリル1 (正進社) 、Speak&Write (エス出版))

- 教科 外国語 の目標：
 【知識及び技能】 語彙、文法について理解を深める。
 【思考力、判断力、表現力等】 目的や場面に応じて正しく情報を理解したり、書いたりして表現できる。
 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自律的に授業に取り組みコミュニケーションを図ろうとしている。

科目	英文基礎	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
中学校で学習した英語の音声や知識、表現、文法や「言語	教材等で扱う基本的な話題について、情報や考えを理解判断し、場面に合わせて簡単な英語で表現する。	自分の考えを述べて、発表したりするために、必要な情報を積極的に得ようとしている。	情報や考えを整理して発表したり、クラスメートの発表を聞いて質問や感想を伝えたりしようとしている。	

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		関	読	話 (<small>聴</small>)	書					
A 単元 【知識及び技能】 ・アルファベット、身の回りの単語が正しく書ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・好きなものについてのやりとりや、 【学びに向かう力、人間性等】 ・好きなものについて話そう、書こうとしている。	・語帳ドリル1 ・Speak&Write Lesson1					・アルファベットの知識を正しく理解しているか。 ・アルファベットを用いて正しい英語を書けるか。 ・好きなものについて質問したり、答えたり、書くことができるか。				6
B 単元 【知識及び技能】 ・be動詞を正しく理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・好きなものについてのやりとりや、書くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の好きな教科について、書こうとしている。	・語帳ドリル ・Speak&Write Lesson1					・be動詞の肯定文・否定文・疑問文を理解し、並べかえて正しい語順がわかる。 ・自分で考えて現在形の文を考えることができ、相手に伝えることができるか。 ・自分の日常生活について書けるか。				7
定期考査										1
C 単元 【知識及び技能】 ・一般動詞現在形を正しく理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自由時間の過ごし方についてまとまりのある文を書ける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自由時間の過ごし方をわかりやすく書こうとしている。	・語帳ドリル ・Speak&Write Lesson1					・一般動詞の肯定文・否定文・疑問文を理解し、正しい語順がわかる。 ・一般動詞を用いて、日常生活について簡単なやりとりができていくか。				7
D 単元 ・一般動詞現在形 (3人称を含む) を正しく理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 ・自由時間の過ごし方をわかりやすく書こうとしている。	・語帳ドリル1 ・Speak&Write Lesson2					・一般動詞の肯定文・否定文・疑問文を理解し、正しい語順がわかる。また、1人称・2人称・3人称について、正しく理解し、語句を並べ替えることができるか。 ・自分の自由時間の過ごし方について、簡単な語句でまとまりのある文を書けるか。				6
定期考査										1
A 単元 【知識及び技能】 ・代名詞、前置詞を正しく理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・普段買い物に行く場所について、いつ、どこで、だれとなどの情報を入れながら書ける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・買い物に行く場所について、詳しい情報を付け加え書こうとしている。	・語帳ドリル1 ・Speak&Write Lesson2					・代名詞、時や場所を表す語句を理解し、正しい語順で書くことができる。 ・正しい語順がわかる。また、1人称・2人称・3人称について、正しく理解し、語句を並べ替えることができるか。 ・普段買い物に行く場所について、いつ、どこで、だれとなどの情報を入れながら書ける。				7
B 単元 【知識及び技能】 ・一般動詞の過去形を正しく理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・過去の出来事について簡単な質問に答えようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・過去の出来事について簡単な質問に答えようとしている。	・語帳ドリル1 ・Speak&Write Lesson3					・一般動詞の肯定文・否定文・疑問文過去形を正しく理解し、正しい語順で書くことができる。 ・過去の出来事について簡単なやりとりができていくか。				6
定期考査										1
C 単元 【知識及び技能】 ・動詞の過去形を正しく理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・簡単な語句を用いながら、日記を書くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・過去の出来事について、書こうとしている。	・語帳ドリル1 ・Speak&Write Lesson3					・一般動詞の肯定文・否定文・疑問文過去形を正しく理解し、正しい語順で書くことができる。 ・自分のことについて、簡単な語句を使って書くことができるか。				7
D 単元 【知識及び技能】 ・現在進行形を正しく理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・絵を見て人物について何をしているか表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・絵からわかることを表現しようとしている。	・語帳ドリル1 ・Speak&Write Lesson5					・現在進行形を正しく理解し、正しい語順で書くことができる。また、現在形との違いを理解して使い分けができるか。 ・絵をみてその人物が何をしているか、簡単に表現しているか。				6
定期考査										1
C 単元 【知識及び技能】 ・疑問詞を正しく理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・疑問詞が含まれた質問について、簡単な語句で答えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分自身について、相手に伝えようとしている。	・語帳ドリル1 ・Speak&Write Lesson4					・疑問詞を正しく理解し、疑問詞を使った英文を正しい語順で書くことができる。また、質問に合わせて的確に答えることができるか。				7
D 単元 【知識及び技能】 ・自分の将来にかかわる語句を正しく使うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の将来の職業について簡単な語句で表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の将来したいことについて、書こうとしている。	・語帳ドリル1 ・Speak&Write Lesson5					・自分の将来の仕事にかかわる語句が書けるか。 ・将来就きたい仕事について、簡単な語句を用いてまとまりのある文を書くことができるか。				6
定期考査										1
										合計
										70
										1

東村山 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 情報 科目 情報 I

教科： 情報 科目： 情報 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： （1組～6組：中村）

使用教科書： （新編 情報 I（東京書籍））

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人の関わりについての理解を深めるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人の関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	情報で問題を解決する コンピュータの基本操作 文書処理ソフトウェアの操作	1. 情報とメディアの特性 2. 問題解決の流れ 3. 発想法 4. 情報モラル 5. 個人情報流出 6. 傷つかない傷つけないために 7. 著作権 8. 情報技術の発展 9. 情報科と私たちの生活の変化 10. より良い情報社会へ 11. Windowsの基本操作 12. Word2019の基本操作	【知識・技能】 ○情報やメディアの特性、問題解決のプロセス、発想法の基本的な考え方を理解している。 ○インターネットを利用する際を守るべき決まり事、個人情報とは何かについて理解している。 ○インターネットの適切でない使い方や起こる問題、著作権で保護されるものを理解している。 ○身の回りの情報技術の活用場面、情報化の進展による生活の変化を理解している。 ○よりよい情報社会を築くための情報環境について理解している。 ○機器の基本的な操作ができる。 【思考・判断・表現】 ○伝える情報に対して適切な表現メディアを判断することができる。 ○身近な問題について、問題解決のプロセスを当てはめて考えることができる。 ○発想法を使って表現することができる。 ○法律が社会の変化に対応できていない例を考えることができる。 ○自分の個人情報などをどこでインターネット上に公開できるかを考えることができる。 ○セキュリティ上よいとされるパスワードを考えることができる。 ○著作権の利用について保護されているかどうか適切に判断することができる。 ○電子メールの利点と欠点、ネット依存になっていないか、サイバー犯罪の対策を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○情報やメディアの特性を理解しようとしている。 ○身近な問題について、問題解決のプロセスを当てはめようとしている。 ○発想法を活用しようとしている。 ○情報モラルを身につけようとしている。 ○個人情報を適切に扱おうとしている。 ○被害者にも加害者にもならないために、どうしたらよいか考えようとしている。 ○授業で使われる著作権の扱いについて調べようとしている。 ○身の回りの情報技術の活用場面を知ろうとしている。	○	○	○	25
	定期考査			○	○		
2 学期	情報を伝える 表計算ソフトウェアの操作	1. デジタルの世界へ 2. 数値と文字のデジタル表現 3. 音と画像のデジタル表現 4. 色と動画のデジタル表現 5. 目的に応じたデジタル化 6. 情報デザイン 7. ユニバーサルデザイン 8. 情報デザインの流れ 9. Excel2019の基本操作	【知識・技能】 ○デジタルとアナログの違い、数値・音と画像・色と動画のデジタル化の方法を理解している。 ○情報を圧縮する方法、情報デザインの方法を理解している。 ○ユニバーサルデザインとは何か、デザイン思考の流れについて理解している。 【思考・判断・表現】 ○情報のデジタル化の利点を考えることができる。 ○文字コードに当てはめて文字をコンピュータで表現することができる。 ○フラッシュデータとベクトルデータの違いを考えることができる。 ○色や光の三原色を調整して、コンピュータで色を表現することができる。 ○情報の圧縮方法の違いについて考えることができる。 ○情報を可視化して表現することができる。 ○身の回りにおける機器のユーザインタフェースを、より使いやすいアイデアを考えることができる。 ○問題解決するために誰に何をどのように取り組めたらよいかをデザイン思考の流れで考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○情報のデジタル化の関わりについて考えようとしている。 ○コンピュータで数値や文字、音や画像、色や動画をデジタル化する方法に興味を持つようとしている。 ○標準化の精度と量子化のレベルについて興味を持つようとしている。 ○全ての人が使いやすいデザインの工夫や取り組みを考えようとしている。	○	○	○	13
	コンピュータを活用する	1. コンピュータとは何か 2. ソフトウェアの仕組み 3. 演算に仕組みとコンピュータの限界 4. アルゴリズムの表現 5. プログラムの基本構造 1 6. プログラムの基本構造 2 7. モデル化とシミュレーション 8. シミュレーションの活用	【知識・技能】 ○コンピュータの仕組み、ソフトウェアの働き、論理回路について理解している。 ○アルゴリズムを表現する方法、プログラムの順次構造、分岐構造、反復構造を理解している。 ○モデル化の技能、シミュレーションをするための技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 ○身の回りにおけるコンピュータが入っている製品を考えることができる。 ○プログラムの種類や種類を考慮することができる。 ○論理回路を真理値表で表現することができる。 ○アルゴリズムを考えることができる。 ○プログラムに表現することができる。 ○モデルを使ったシミュレーションを表現することができる。 ○シミュレーションで表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○コンピュータの仕組みに興味を持つようとしている。 ○プログラムの動作の仕組みに興味を持つようとしている。 ○論理回路を真理値表で表そうとしている。 ○アルゴリズムを考えようとしている。 ○プログラムの、モデル化とシミュレーション、コンピュータによるシミュレーションをしようとしている。	○	○	○	12
定期考査				○	○		
3 学期	データを活用する プレゼンテーションソフトウェアの操作	1. ネットワークとインターネット 2. インターネット仕組み 3. サーバとクライアント 4. インターネット上のサービス 5. 情報セキュリティ 6. データの形式 7. データベースの形式 8. さまざまなデータモデル 9. データ分析の流れ 10. 目的に合わせたデータの利用 11. PowerPointの基本操作	【知識・技能】 ○インターネット接続、インターネットの接続の仕組みについて理解している。 ○サーバとクライアントの意味と役割を理解している。 ○インターネット上のサービスの仕組み、情報セキュリティの技術を理解している。 ○データの形式について、データベースがどのように活用されているか理解している。 ○データモデルを理解している。 ○データを収集して可視化する技能を身につけている。 ○データ分析の際に注意することや理解している。 ○機器の基本的な操作ができる。 【思考・判断・表現】 ○インターネットの今後の利用について考えることができる。 ○プロトコルによってどのように通信しているかを考えることができる。 ○認識後に使えるようになるサービスについて考えることができる。 ○ネットワークのトラブルシューティングを考慮することができる。 ○情報セキュリティを高める技術について具体的な活用例を考えることができる。 ○データの性質を適切に判断してアンケートに表現することができる。 ○電子メールで支払ったときの利点について考えることができる。 ○関係データモデルの利点を考えることができる。 ○データを分析して表現することができる。 ○集めたデータに欠損値や外れ値が含まれていたらどのような分析結果になるかを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○ネットワークの仕組みについて興味を持つようとしている。 ○コンピュータに割り振られているIPアドレスをどのように調べたらよいか考えようとしている。 ○サーバとクライアントの役割について考えようとしている。 ○インターネット上のサービスの仕組みについて考えようとしている。 ○情報セキュリティを高める技術を実践しようとしている。 ○身近にあるデータ、データモデルに興味を持つようとしている。 ○蓄積したデータを活用しようとしている。 ○問題解決のために、データを収集し、分析し、結果を表現しようとしている。 ○分析の目的とデータの関係について興味を持つようとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		
						合計	70